



西山 富三郎 議員

# 認知症啓発の取り組みは

町長 地域全体で正しい理解を

〔西山〕日本の平均寿命は世界のトップクラスだが、老化との関わりが深い認知症にかかると可能性も高い。認知症に対する啓発はどのように行っているか。

〔町長〕高齢者の4人に1人が認知症またはその予備軍と言われている。認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域全体で支え、正しく知り、理解を深める啓発活動が必要である。学校や事業所で認知

症サポーター養成講座を実施し、認知症に関する映画上映も行った。2月には認知症講演会も予定している。

〔西山〕本年度から設置されている認知症支援推進員の役割は。〔町長〕医療機関や介護サービス事業所、支援機関との連携を図っている。認知症の人やその家族、ケアマネージャーなどから、さまざまな相談を受け、アドバイスをを行っている。



学校でのサポーター研修

町長

# 障がい者への行動規範は

町長 制定済みで周知を図る

〔西山〕障害者差別解消法が平成28年4月1日に施行された。町職員の行動規範は制定しているか。

〔町長〕職員がこの法律に適切に対応するための必要事項を定めた「障がい理由とする差別の解消の推進に関する大山町職員対応要領」を策定し、11月1日付で施行した。職員に一層の周知徹底を図る。

〔西山〕インクルーシブ教育とは。また、その実践は。〔教育委員長〕インクルーシブ教育とは、障害のある者と障害のない者とともに学ぶ教



障がい者への適切な対応を

育のことである。西部地区7市町村では、就学支援委員会を設置し、これまで以上に児童や生徒の就学先を柔軟に考えていくようになった。本町においても、人の意志や保護者の思いを尊重しながら、柔軟な対応に努めている。

# デマンドバスの見直しは

町長 見直しは難しい



吉原 美智恵 議員

〔吉原〕デマンドバスは、集落から町が決めた80カ所の目的地間で運行されている。

10年プランでは、住民が行きたいところへストレスなく行ける公共交通サービスを提供すると記されているが、現状のままでいいのか。

〔吉原〕合併しているのに、旧地区を超える1500円、地区内でも往復千円は公共交通といえるのか。予約の仕方も理解しにくく、外出しない人が増えると健康にも影響が出て、町全体の問題となるのではないか。

〔町長〕運輸局と長時間かけてルールづくりをしており、見直しは難しい。料金は地元業者の意見をふまえて決めた。



現状のままでいいのか

〔町長〕お互いに助け合う集落づくりや、自立した生活を送れるよう、社会福祉協議会と共に進めている。かかりつけ医とも連携を図るシステムづくりも進め支援していく。



町民が安心して生活できる支援を

# 地域包括ケアシステムの取り組みは

町長

町長 連携し進めている

〔吉原〕地域包括ケアシステムは、生活支援、医療・介護が一体的に支援される仕組みであり、高齢化が進む本町にとって重要である。町民が安心して生活できる支援は図られているか。

〔町長〕お互いに助け合う集落づくりや、自立した生活を送れるよう、社会福祉協議会と共に進めている。かかりつけ医とも連携を図るシステムづくりも進め支援していく。

〔町長〕要介護者に対しては、町内にさまざまな施設があり、入所支援している。経験者の登用は促進したい。